

菊本副院長の漢方問答 その53



問 「肥満の漢方治療とはどのよ

うなものですか?」⁽⁵⁾

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。今回から、表の「水太りタイプ」に入り、一番目の防己黄耆湯についてお話しします。

防己黄耆湯は、漢方の重要な古典である「金匱要略」に登場します。構成生薬は、防己、甘草、白朮、黄耆、生姜、大棗です。

「傷寒論」は、感染症の治療を中心には、漢方薬の使い方を解説した書物であることを、以前お話ししました。「金匱要略」は、感染症以外の、慢性に経過する病気の治療法を解説した書物です。防己黄耆湯は、いわゆる「水の流れ」が悪くなつて生じる病態に使用されます。

〈引用〉風水、脈浮、身重、汗出悪風者、防己黄耆湯主之。(金匱要略、水氣病篇)

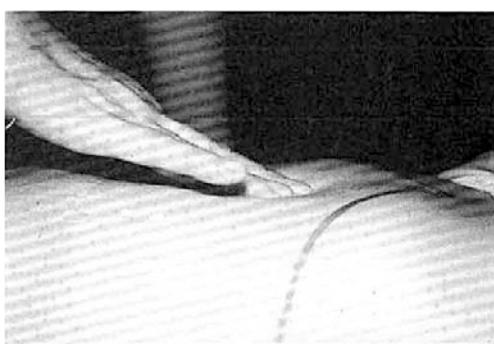
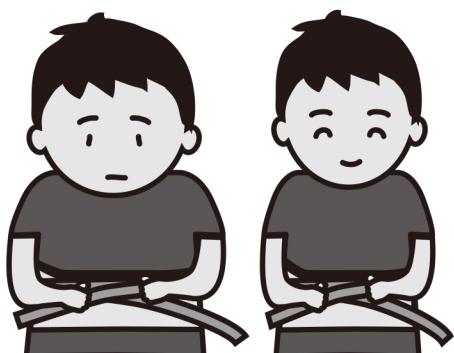
水の流れが悪くなつて、脈が浮き、からだが重だるく、汗が出て、寒気がするときには、防己黄耆湯が有効

です。

脈が浮いているのは、からだの表面に病変があることを物語っています。

要するに、からだの表面の水の流れが悪くなつたため、からだの表面の水が滞つて、むくみとなり、からだが重だるく感じ、からだの表面から汗がにじみ出し、からだの表面が水浸しになつてゐるのですから、寒氣がするのです。防己黄耆湯は、防己と黄耆が中心となつて、からだの表面に滞つた水を処理します。

図の写真は、私の漢方の師匠である「小川新先生」が、からだの表面を診察されていた手です。実に丁寧に、慎重に診ていらつしゃいました。



皮下組織の触診法

肥満の頻用処方

固太りタイプ

ぼうふううしょうさん だいさい ことう だいじょうきとう
防風通聖散、大柴胡湯、大承氣湯

水太りタイプ

ぼう い おうぎとう えっ び かじゅつとう く み びんろうとう
防己黄耆湯、越婢加朮湯、九味欒榔湯

瘀血を伴う場合

とうかくじょうきとう けいし ぶくりょうがん
桃核承氣湯、桂枝茯苓丸

気逆・気鬱を伴う場合

さい こ かりゅうごつぼ れいとう とうかくじょうきとう
柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承氣湯、
かみ しょうようさん よくかんさん はん げ こうぼくとう
加味逍遙散、抑肝散、半夏厚朴湯

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)

皆さまから漢方に関する質問を募集しています。はがきまたは電子メールで住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢を添えて、最終ページに記載の住所またはEメール information@ideshita-clinic.jp のいでしたクリニックとわえもあ編集係まで送付ください。